

社会性を育む保育環境デザイン—ごっこ遊び遊具の提案

佐藤朝美（東京大学大学院情報学環）

山内祐平（東京大学大学院情報学環）

星野俊樹（ミサワホーム総合研究所）

星野裕之（ミサワホーム株式会社）

中川正男（ミサワホーム株式会社）

1. 研究の背景

社会性とは、乳児期から幼児期にかけて発達する重要なスキルとして研究が多く行われており、多様な定義がされている。本研究では、プロジェクト・スペクトラムにおける「社会的理解」の定義に着目している。プロジェクト・スペクトラムとは、ハワード・ガードナーとデビット・フェルドマンの研究グループが実施した、幼児期から児童期前半の子どもを対象とした教育カリキュラム開発プロジェクトである。フェルドマンの非普遍化理論とガードナーの多重知能の理論を基礎とし、実践の中で評価と活動を練り上げている[1]。

彼らが設定した8つの領域—機械と構成・科学・運動・音楽・数学・社会的理解・言語・美術—の1つである社会的理解は、3つの鍵となる能力（Key Abilities）から構成される。自己理解、他者理解、社会的役割への理解であり、他者との交流や対応に現れるものとして捉えている[2]。それらを育み、さらには評価を行う活動として、洋服や小道具を用いるごっこの遊びや、自分達の教室の模型と写真を貼った人形を使用する教室モデル遊び、テレビ型の箱を用いるレポートごっこ遊びなどが提案されている[3]。これらの遊びの中で生成される社会的相互作用が、社会的理解の発達につながるものと考えられている。

2. 本研究の概要

本研究では、社会的理解につながる社会的相互作用が生成する環境として、身近な街をテーマにごっこ遊びが行えるよう遊具のプロトタイプを作成している（図1）。具体的には、警察署、郵便局、駅、病院で、ダンボール素材の1メートル四方の立体箱である。

実際に保育園に導入し、遊び場を観察しながら、

既存のプロジェクト・スペクトラムでの活動を拡張し、ダイナミックな動きやインタラクションを行えるよう、乗り物（図2）や小道具を追加で導入している。

導入した園は、異年齢保育を特徴とした年少児の多い（年長5名、年中9名、年少14名）都内の保育園である。導入前には一人遊びの多かった年少児たちが、遊具を通して、役になりきるだけでなく、いくつかのテーマやプランを提案し、共有する場面が見られた。

今後は、耐久性のある資材にて本実践用遊具を開発し、長期観察を行い、社会的相互作用と遊具の関係について評価を行う予定である。

参考文献

[1] Building on Children's Strengths: The Experience of Project Spectrum (Project Zero Frameworks for Early Childhood Education, Vol 1), Teachers College Pr, 1998

[2] Project Spectrum : Preschool Assessment Handbook (Project Zero Frameworks for Early Childhood Education, Vol.3), Teachers College Pr, 1998

[3] Project Spectrum : Early Learning Activities (Project Zero Frameworks for Early Childhood Education, Vol 2), Teachers College Pr, 1998



図2：乗り物遊具



図1：ごっこ遊び遊具